

1. 活動の概要

6月19日(木)、奥出雲町立仁多中学校で「心に残る文化財子ども塾」を開催しました。“土器作り体験と地元から出土した土器に触れる”と題し、町内遺跡の紹介および土器づくりを中心とした学習活動を行いました。

まず仁多中学校付近に所在する主要な遺跡である原田遺跡の概要について、旧石器・縄文時代を中心に概説し、仁多地域周辺の原始時代どのような地域であったのか紹介するとともに、実際に出土した土器や石器について近くで観察したり、実際に触れてもらう活動を通じ、児童に地域の重要性を理解してもらいます。そして土器にはどのような種類があり、時代によって使用用途に応じた器種が増えていくことを説明したあと、児童に粘土で土器を作ってもらいました。これらの講義や体験活動を通じ、地域の重要性や土器作りの難しさを実感してもらうことができたのではないかと思います。

2. 活動の様子



「原始時代の仁多中学校の周辺の様子とは？」



「実際に遺跡から出土した遺物を見よう・触れよう」



「土器を作ってみよう」



「上手にできました!!」

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・尾原ダム(原田遺跡)から縄文土器が出ていることを知ってびっくりした。
- ・尾原ダム周辺に遺跡があることを初めて知りました。
- ・土器作りが難しかったが作ることができてうれしかった。
- ・縄文土器がきれいだった。

2)担任の先生から…

- ・特別支援学級の生徒の実情にあわせた授業となり、生徒にとっても大変楽しい時間となりました。
- ・生徒なりに地元の大昔の姿に関心を持つきっかけとなり、土器をきれいなものとみえるようになったきっかけもいただいた。

3)古代文化センターから…

奥出雲町に所在する尾原ダムの発掘調査では旧石器時代以降、当地での人類活動の痕跡が強く残っています。特に、旧石器時代や縄文時代については、県下を代表する遺跡も存在しています。中国山間部における原始時代の具体像を物語る貴重な遺跡といえます。

今回の講義や体験をとおして、仁多中学校周辺の歴史について、皆さんにより一層興味関心をもってもらえたら嬉しいです。